

庭園、公園、森林

リスボンとその周辺地方

Lisboa

Jardim Afonso de Albuquerque

住所： Praça Afonso de Albuquerque Belém - Lisboa

アクセス：

バス；鉄道駅；

アフォンソ・デ・アルブケルケ庭園（Jardim Afonso de Albuquerque）この庭園は約2ヘクタールの広さがあり、その中央には1057年から1515年にかけてポルトガル領インド総督であったアフォンソ・デ・アルブケルケの記念碑があります。この記念碑は彫刻家コスタ・モタによって製作されたもので、ネオ・マヌエル様式の台座は建築家のシルヴァ・ピントが設計しました。

この広場は1940年の「ポルトガル万国博覧会」の際につくりかえられ、彫刻家バラタ・フェーヨが手がけた4つの噴水を中心とする現在の形になりました。

Jardim Botânico da Ajuda

住所： Calçada da Ajuda 1300-010 Lisboa Tel: +351 213 622 503

Eメール： botanicoajuda@isa.ulisboa.pt **ウェブサイト：**

<https://www.isa.ulisboa.pt/en/visitors/ajuda-botanical-garden>

アクセス：

バス；

アジュダ植物園（Jardim Botânico da Ajuda）この植物園は、1768年にボンバル侯爵の命を受けてアジュダ王立植物園としてつくられた、アジュダ地区にあるポルトガル最古の植物園です。

世界中から集められた植物の博物館とナーセリーの役割を果たす植物園としては、ポルトガル初のものでした。現在は、高等農学研究所によって管理されています。この植物園では、1994年から1997年にかけて修復プロジェクトが行われました。これは、植物コレクションを保存・展示することによってポルトガルの探検家たちの科学的探究心を記録する植物学的原点を維持しながら、レジャーとリラクゼーションの場を提供することを目的に行われたものです。

この修復プロジェクトの重要項目には、植物園の低地花壇の中央にある40の口を持つ噴水（素晴らしい石と水の競演）を復元すること、そしてポルトガル国内の施設や世界中のさまざまな植物園から入手した種を育てて植物コレクションを再構築することがありました。育てられた新しい植物は、ポルトガルに持ち込まれた背景と大航海時代を反映した植物地理学的な地域（ブラジル・南米、オーストラリア・ニュージーランド、マクロネシア、中央・大西洋岸ヨーロッパ、中国・日本、北米・中米、地中海地方・アフリカ）に分けて配置されています。

特筆すべきは「香りの庭園」で、眼の不自由な人たちのために点字の名札が付けられ、訪れる人が香りをかぎ手で触れることができるよう盛土した花壇に植物が植えられています。

また、園内には小さな複数の湖や、花を育てる温室、そして芝で作られた野外劇場もあります。

Jardim da Estrela ou Guerra Junqueiro

住所： Praça da Estrela - 1200 Lisboa

Jardim Botânico - Museu Nacional de História Natural

住所： Rua da Escola Politécnica, 58 1250-102 Lisboa Tel: +351 213 921 800 - Fax: +351 213 970 882

Eメール： geral@museus.ulisboa.pt **ウェブサイト：**

<http://www.museus.ulisboa.pt/jardim-botanico>

時刻表：

3月末～10月末 - 月～金:午前9時～午後8時; 土日祝:午前10時～午後8時;
10月末～3月末 - 月～金:午前9時～午後6時; 土日祝:午前10時～午後6時;
休:12月25日、1月1日。;

アクセス：

バス；

植物園 - 国立自然史博物館（Jardim Botânico - Museu Nacional de História Natural）この植物園は、19世紀に、植物学と農学の基本を教える授業のために、旧王立貴族大学につくられたものです。

現在はリスボン大学の国立自然史博物館に統合されているこの植物園には、素晴らしい植物のコレクションがあり、その中には重要な外来植物を保存するセクションもあります。

この植物園にはポルトガルでも最大級のソテツ科植物（恐竜の時代から生き続けてきた植物）のコレクションがあります。また、ヤシやイチジクの木立の他に、サボテン・多肉植物のコレクションも一見の価値があります。約4ヘクタールの敷地全体にはたくさんの木々が植えられ、その木陰には湖や橋、そして数々の彫刻が隠れています。

Jardim Botânico Tropical

住所： Largo dos Jerónimos 1400-209 Lisboa Tel: + 351 213 921 808

Eメール： geral@museus.ulisboa.pt **ウェブサイト：**

<https://museus.ulisboa.pt/pt-pt/jardim-botanico-tropical>

時刻表：

午前10時～午後5時；

休:祝日。;

アクセス：

バス；

熱帯植物園・博物館（Jardim-Museu Agrícola Tropical）この熱帯植物園・博物館は、1912年にヘンリー・ネイヴェルの提案により、かつてのポルトガル植民地で発見された植物の研究促進を目的に、ペレン王宮（Palácio de Belém）の外苑に建設されました。現在は、科学調査研究所によって管理されています。

この手入れの行き届いた公園には、絶滅危惧種を含むたくさんの熱帯・亜熱帯の植物が植えられ、その間には彫刻が飾られた湖や静かな休憩場所がつくられています。中でも一番の見どころは、アソーレス（Açores）諸島とマデイラ（Madeira）諸島で見られるクスノキ科の固有種のコレクションと、美しいワシントンヤシの並木です。

この植物園は、1940年に開かれた「ポルトガル万国博覧会」にも組み入れられました。時の首相サラザールは、旧植民地を思い出させる数々の植物を世界に誇示するためにこの庭園を利用しました。

Jardim da Praça do Império

時刻表:

毎日午前7時～正午。;

アクセス:

バス;

特色とサービス:

レストラン;

エストレラ庭園 / ゲーラ・ジュンケイロ庭園 (Jardim da Estrela ou Guerra Junqueiro) 一般にエストレラ庭園の名で知られるゲーラ・ジュンケイロ庭園は、ラパ (Lapa) 地区の中にあります。この庭園は、トマール侯爵ベルナルド・ダ・コスタ・カブラルによって、19世紀 (1842年) につくられました。

英国式公園に影響を受けた、ロマン主義的な要素のある自然主義に基づく公園で、柵に囲まれたその園内では、非常に興味深い植物を多数見ることができます。

他にも、4つの池、錬鉄製の野外ステージ、鉄の遊具の遊び場と木の遊具の遊び場、そして休憩所 / 地域図書館があります。

Jardim da Torre de Belém

住所: Av. Brasília Belém - Lisboa

アクセス:

バス; 鉄道駅;

ベレンの塔庭園 (Jardim da Torre de Belém)

20世紀半ばまで、この場所にはベレン・ガス工場 (Fábrica do Gás de Belém) がありました。この地域一帯は「ポルトガル万国博覧会」(1940年)の時に再整備され、ポルトガルの航海士たちが発見した新たな地を象徴するものとしてヤシの木が植えられました。

リスボンで名高い建造物のひとつであるベレンの塔は、この新しい庭園が目の前につくられたことによって、さらにその美しさを増しました。近くには、ヨットのマリーナ、ドーカ・ド・ボン・スセッソ (Doca do Bom Sucesso) があります。

Jardim do Campo Grande

住所: Campo Grande - 1700 Lisboa

ウェブサイト: <http://www.jardimdocampogrande.pt>

特色とサービス:

バー; レストラン;

アクセス:

バス;

カンポ・グランデ庭園 (Jardim do Campo Grande)

16世紀にはカンポ・デ・アルヴァラーデ (Campo de Alvalade) の名で知られていた場所で、19世紀初頭にロマン主義的な様式の庭園がつけられました。

初めて競馬が開催された場所でもあり、現在も庭園の近くにつくられた競馬場で競馬が行われています。

その後1945年に、敷地を広げて新たな設備を加えるために建築家ケイル・ド・アマラルが庭園を再設計し、大衆向けのレクリエーションエリアに生まれ変わりました。

Jardins da Fundação Calouste Gulbenkian

住所: Av. de Berna, 45-A 1067-001 Lisboa

時刻表:

午前9時～午後8時。;

特色とサービス:

住所: Praça do Império - Belém - Lisboa

アクセス:

バス; 鉄道駅;

インベリオ広場庭園 (Jardim da Praça do Império) この庭園は、ポルトガル独立800周年とスペインからの再独立300周年を記念して開催された、「ポルトガル万国博覧会」(1940年)のためにつくられました。イルミネーションの美しい噴水、フォンテ・ルミノーザ (Fonte Luminosa) がつくられたのもこの時のことです。庭園内は32の紋章を組み合わせた設計になっており、低木や草花がかつてのポルトガル帝国の各州を表すように配置され、周囲にある4つの池には神話上の動物である海獣の尾を持つ2頭の馬の彫刻が据えられています。庭園の近くには、リスボンでも最も有名な建造物のひとつであるジェロニモス修道院 (Mosteiro dos Jerónimos) や、重要な展示会やコンサートが多く開かれるベレン文化センター (Centro Cultural de Belém) があります。

Jardim das Amoreiras ou Jardim Marcelino Mesquita

住所: Praça das Amoreiras - 1200 Lisboa

時刻表:

出入り自由。;

アクセス:

バス;

アモレイラス庭園 / マルセリーノ・メスキータ庭園 (Jardim das Amoreiras ou Jardim Marcelino Mesquita) 劇作家、詩人、そして作家として活躍したマルセリーノ・メスキータの名を冠するこの公園は、サン・マメーデ (S. Mamede) 地区の中にあります。

この場所は1759年に新たに作りかえられ、ボンバル侯爵によって331本のクワの木 (アモレイラ) が植えられました。これはポルトガルの絹産業の刺激を意図したものです。当時、この広場の近くにある工場が絹産業の中心となっていました。この小さな庭園では、状態の良いクワの木をはじめ、素晴らしいイチョウやサイカモアカエダなど、10種類の木を目にすることができます。

庭園の周りには、絹工場の工場主たちが住んだ18世紀の建物や、アモレイラス通り (Rua das Amoreiras) にある一連の装飾パネル、アモレイラス貯水池 (Mãe d'Água das Amoreiras)、水道橋の下にあるノッサ・セニョーラ・デ・モンセラテ教会 (Ermida de Nossa Senhora de Monserrate)、修復された工場の建物を使用したアルバド・スゼンヌ・ヴィエラ・ダ・シルヴァ美術館 (Museu Arpad Szénes-Vieira da Silva) があります。この美術館は、ポルトガルの現代アーティストであるマリア・ヘレナ・ヴィエラ・ダ・シルヴァとその夫であるハンガリー人画家アブラド・スゼンヌを記念した美術館です。

また公園内には、子どもの遊び場や小さな池があり、遊歩道や東屋も設けられています。

Jardim do Príncipe Real ou Jardim França Borges

住所: Praça do Príncipe Real - Lisboa

特色とサービス:

バー; レストラン;

アクセス:

バス;

プリンスベ・レアル庭園 / フランサ・ボルジェス庭園 (Jardim do Príncipe Real ou Jardim França Borges) 共和主義者のジャーナリストの名をとってフランサ・ボルジェス公園と名付けられたこの公園は、メルセス (Mercês) 地区にあり、別名プリンスベ・レアル庭園とも呼ばれています。

イギリス・ロマン主義の影響を受けてつくられた園内には、高さ20メートル

トイレ; バー; レストラン;
アクセス:
バス;

カルースト・グルベンキアン財団庭園 (Jardins da Fundação Calouste Gulbenkian) カルースト・グルベンキアン財団は、同名の芸術財団が入る建物を囲むようにつくられています。敷地内には、同財団のコンサートホールや展示スペース、現代アートセンター、そして図書館とレストラン/バーを備えた美術館があります。

財団設立者のカルースト・グルベンキアンを記念して1950年代につくられたこの公園は広々としており、あらゆるレジャー活動や文化活動に理想的な場所です。また、慎重にデザインされた景観の中に、さまざまな種類の植物が植えられています。

公園全体とその中の庭園や緑地帯の設計は、造園家のゴンサロ・リベイロ・テレスとアントニオ・ヴィアナ・パレットが担い、財団の建物を設計した建築家のアルベルト・ベッソン、ペドロ・シド、ルイ・アソウギアと協力しながらデザインしました。

Parque Eduardo VII

住所: Parque Eduardo VII - Lisboa

特色とサービス:
屋外駐車場; レストラン;
アクセス:
バス;

エドゥアルド7世公園 (Parque Eduardo VII)
エドゥアルド7世公園は、サン・セバスティアン・ダ・ペドレイラ (São Sebastião da Pedreira) 地区にあります。リベルダーデ通り (Avenida da Liberdade) から北に広がっており、街を一望することができます。元々はリベルダーデ公園と呼ばれていましたが、1903年に英国の王エドワード7世がリスボンを訪れたのを記念して改名されました。

この公園は、昔も今もフェアや展覧会などさまざまなエンターテインメントの舞台となっています。芝の緑地帯をはさんで両側にポルトガル様式の舗道を配したデザインは、ケイル・ド・アマラルの手によるもので、リスボンの名所のひとつとなっています。

公園内にあるスポーツ・パビリオンは、1932年にジョアン5世様式で建てられました。現在このパビリオンは、ポルトガルの有名な運動選手を記念してカルロス・ロベス・パビリオンと呼ばれています。また公園内には、世界中のさまざまな植物を集めた温室やいくつかの池があり、エドワード7世の胸像やジョアン・クティレイロが製作した4月25日革命の記念碑などさまざまな彫刻が各所に置かれています。

その他にも、子ども公園や展望台、野外ステージ、ピクニック場、クラブVII複合スポーツセンターがあり、センターにはテニスコート、ジム、プール、レストランが入っています。

Tapada das Necessidades

住所: Largo das Necessidades 1399-051 Lisboa

時刻表:
午前10時 - 午後6時半。休:12月24、25、31日、1月1日、復活祭の日曜日。
アクセス:
バス;

タパダ・ダス・ネセシダーデス (Tapada das Necessidades) タパダ・ダス・ネセシダーデスは、1604年からプラゼーレス (Prazeres) 地区にあった獵場です。1742年、ポルトガル王ジョアン5世が周囲の農地を購入し、礼拝堂、修道院とともに自分が住もうための宮殿を建てました。1843年、フェルナンド王がボナルドに庭園の再設計を依頼し、それまで菜園

ルを越す樹齢100年の「ブサコのヒマラヤスギ」が立ち、公園を見守り続けてきた記念碑的な存在となっています。また、園内に複数ある小宮殿は、ロマン主義の19世紀リスボンを今に伝えています。公園の下には、公園と同時期につくられた、EPAL水博物館 (Museu da Água da EPAL) 所有のパトリアルカル貯水池 (Reservatório da Patriarcal) があります。

他にも、アンテロ・デ・ケンタールの没後100年を記念して作られたラゴン・エンリケスの像をはじめ、さまざまな彫刻、サンドイッチの売店と東屋、池、さまざまな遊具のある子どもの遊び場、ゲームテーブルが備えられた休憩所があります。

Parque do Monteiro-Mor

住所: Largo Júlio Castilho, 2 (Museus do Traje e do Teatro) 1600-495 Lisboa

時刻表:
6月~9月:午前10時~午後7時;
10月~5月:午前10時~午後6時。
休:月、1月1日、聖金曜日、復活祭の日曜日、5月1日、12月25日。
特色とサービス:
バー; レストラン;
アクセス:
バス;

モンテイロ・モル公園 (Parque do Monteiro-Mor)
ルミアル (Lumiar) 地区の中にあり、国立服飾博物館 (Museu Nacional do Traje) と国立演劇博物館 (Museu Nacional do Teatro) に隣接しています。この公園は、18世紀に植物学者ドミンゴス・ヴァンデリーの設計でつくられました。

この公園は空間を上から下までうまく利用しており、高い木々が枝を広げてつくる涼しい陰の下で若い木々が成長しています。

小川や池の他に、小さな庭園もあります。

Parque Recreativo dos Moinhos de Santana

住所: Rua Tristão Vaz - Alto do Restelo 1400-353 Lisboa

時刻表:
4月~9月:午前9時~午後8時; 10月~3月:午前9時~午後6時。
アクセス:
バス;
特色とサービス:
レストラン;
モイニョス・デ・サンタナ・レクリエーションパーク (Parque Recreativo dos Moinhos de Santana)
のおよそ5ヘクタールの敷地には、芝生で覆われた広いスペース、さまざまな多くの木々、そして豊富な水をたたえた湖や滝があります。いろいろなスポーツ設備や、あらゆる年齢層が楽しめる娯楽施設もあります。

そうした施設には、ピクニック場、子どもの遊び場、スケートボード用のサーキット、ローラースケートリンク、フィットネス・トレーニング用のトラック、そして180人を収容できる野外劇場があります。

だったところをイギリス風の庭園にしました。その後ペドロ5世（19世紀）が円形の温室を建て、カルロス1世（19世紀末）がテニスコートとパビリオンをつくりました。このパビリオンは「カザ・ド・レガーロ」（Casa do Ragalo）と呼ばれ、アメリア王妃がアトリエとして使用していました。現在は、公園の森林管理委員会が管理しています。公園内には、パルメイラ（Palmeira）、エストレリシアス（Estrelícias）、デューケ・デ・ラフォンズ（Duque de Lafões）と呼ばれる3つの池があり、その周りにはさまざまな珍しい植物や、小さな滝、噴水、貯水池、そして「エスタトゥアリア・ダス・ヴィルトゥデス（美德の像）」シリーズをはじめとする彫刻が見られます。

Oeiras

Parques dos Poetas

住所：Rua S. Salvador da Baía, 2780 Oeiras

ウェブサイト：<http://www.cm-oeiras.pt/voeiras/Turismo/Ondelr/Paginas/PatrimonioNaturaAmbiental.aspx>

Sintra

Parque da Pena

住所：Estrada de Monserrate 2710-405 Sintra

時刻表：

冬季（9月16日～4月30日）：午前10時～午後6時（入場券販売終了午後5時）；

夏季（5月1日～9月15日）：午前9時半～午後8時（入場券販売終了午後7時）。；

アクセス：

バス；鉄道駅；

特色とサービス：

ガイドツアー；

ペナ公園（Parque da Pena）ペナ公園は、フェルナンド2世の自由な想像力の賜物であり、19世紀のロマン主義時代の学問と芸術の傾向を反映しています。フェルナンド2世は、建築家のエッシュウエーゲ男爵とエンジニアのケスラー男爵と共に、ペナ宮殿を含む公園全体のプランを練り上げました。

フェルナンド2世は、古典的な庭園の幾何学的な硬さを排除し、土地の起伏や土壌、山地特有の気候、そして息を呑むような絶景を生かして、完璧に自然を再現しようとしていました。ペナ宮殿がオペラの舞台や遠い国々にヒントを得た模造廃墟を基礎としているのと同様に、ペナ公園も多様な対照的な環境の中に驚くほど風変わりな特徴をちりばめたデザインになっています。この構想を実現させるために、フェルナンド2世は、ジェロニモス派の修道士たちが残した建物を公園と宮殿の中に組み入れました。

フェルナンド王は湖を滝で結び、世界中から集められた植物たちを森や林に移植しました。それらには、日本のスギ、ニュージーランドのシダ、レバノンスギ、ブラジルのナンヨウスギ、北アメリカのニオイヒバ、そして無数のポルトガル国内の植物が含まれ、合計2000種を超えています。また公園のあちこちに、贅沢なパビリオンや噴水、小さな泉や小川、また人目につかない静かな場所や展望塔がつけられました。

この公園を標識どおりにまわると、通常1時間15分程度かかります（およそ4 km）。

公園内にはレストランとカフェテリアも設けられています。公園に行くには、シントラ（Sintra）の街まで来れば、ペナ公園の方向を示す標識が出ています。また、街の中心部からペナ公園行きの公共バスも運行されています。